

課題解決への道筋／本事業を通じて行うこと

① 農作業へのハードルの高さ

- ・ 農業技術の習得が難しい、
- ・ 農業技術のある指導員や人材不足

農業法人

障がい者等への接し方がわからない
生産性が低いのではという懸念

福祉法人

農業という専門外領域に対する不安
(自分たちにはできるのか)

成功イメージが必要

導入前・導入後のサポートが必要

② 生産規模が小さく農作物の販売先の確保や 大手取引先の獲得が難しい

JAへの参入規模、取引先との契約条件など

連携した取り組みで生産量をプラスに！
生産量を増やす工夫が必要

③ 資金確保が難しく必要機材購入などの施設 整備ができない

1者だけで利用すると費用対効果が望めない

全体最適を考えた投資が必要

農福連携推進体制の構築

農福推進リーダーの育成

- ・ 農業側・福祉側双方の不安や懸念を解消する。
- ・ 農福双方の事業参画者を増やし、福祉法人・農業法人を複数つないで連携することで必要な人数を必要な場所に必要な時期にマッチングできるといった柔軟性も広がる。

農福応援団の獲得

- ・ 地域内外での事業への賛同者・協力者を得る。

受入体制の構築

農業就労サポーターの育成

- ・ 農福双方の観点から障がい者等の農作業をサポートできる人材を現場で育て、作業環境の整備や作業効率を上げ、生産性に貢献する。

農作物の生産性向上・販路拡大

専門家による支援

- ・ 専門家によるアドバイスで生産性向上の取り組みや、販路獲得のための知見・ネットワークを得る。

休眠預金による必要は初期投資の実行

- ・ 生産性向上や商品開発等のために必要は初期投資（機材購入など）を行う。